

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもトレーニングひろば 第二校		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 日		令和7年 3月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57	(回答者数) 38
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 日		令和7年 3月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 19日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種連携(保育士、児童指導員、PT、OT、ST)が図れ、専門的な視点での支援が可能であること	毎日実施しているレクリエーションでは、各専門分野に特化した内容を取り入れ実施	目標を各専門職で設定し、児発管が全体の目標を決める
2	同一法人内に別事業所(児童発達支援事業+放課後等デイサービスの多機能型)があり日頃から交流を行っている。そのため、児発から放デイに移行する際はスムーズに移行することができる(店ではなく線での支援)	レクリエーションを実施する際は、参加できる子供がいればできるだけ声かけを実施	法人全体での保護者参加型イベントを検討 保護者同士の交流する機会を提供していく
3	保護者への連絡は電話ではなくラインを用いていること 日々の記録もデイロボ(連絡ツール)を活用し連絡をスムーズにしていること	できるだけその日の様子を写真に撮り保護者に見てもらおうにしている。必要な時には動画も撮影(保護者の同意あり)	撮影した写真は年度が変わるまでは保存し、年度末に子供たちの成長がわかるようアルバムを作成

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会など家族支援が少ない	保護者参加型のイベントが年間1~2回と少ない すべての保護者を事業所に呼ぶことはスペース的に難しい	広い会議室を借りて、ある程度の保護者が参加できるよう工夫が必要
2	他事業所との交流が少ない	他事業所のスタッフと交流するのは研修会のみで面識がほとんどない状態	自分たちで研修会や交流会を開催しスタッフ同士が会う機会を準備する
3	学童や地域との交流が少ない	今まで学童や地域の方との交流を新型コロナウイルスの影響ですることがなかった	今後は新型コロナウイルスや感染性ウイルスを予防しながら交流する機会を進めていきたいと思ひます